《幼児教育》

伝え合う喜びを味わえるようになるための援助と環境構成の工夫

～自分の気持ちや考えを話す活動を通して～

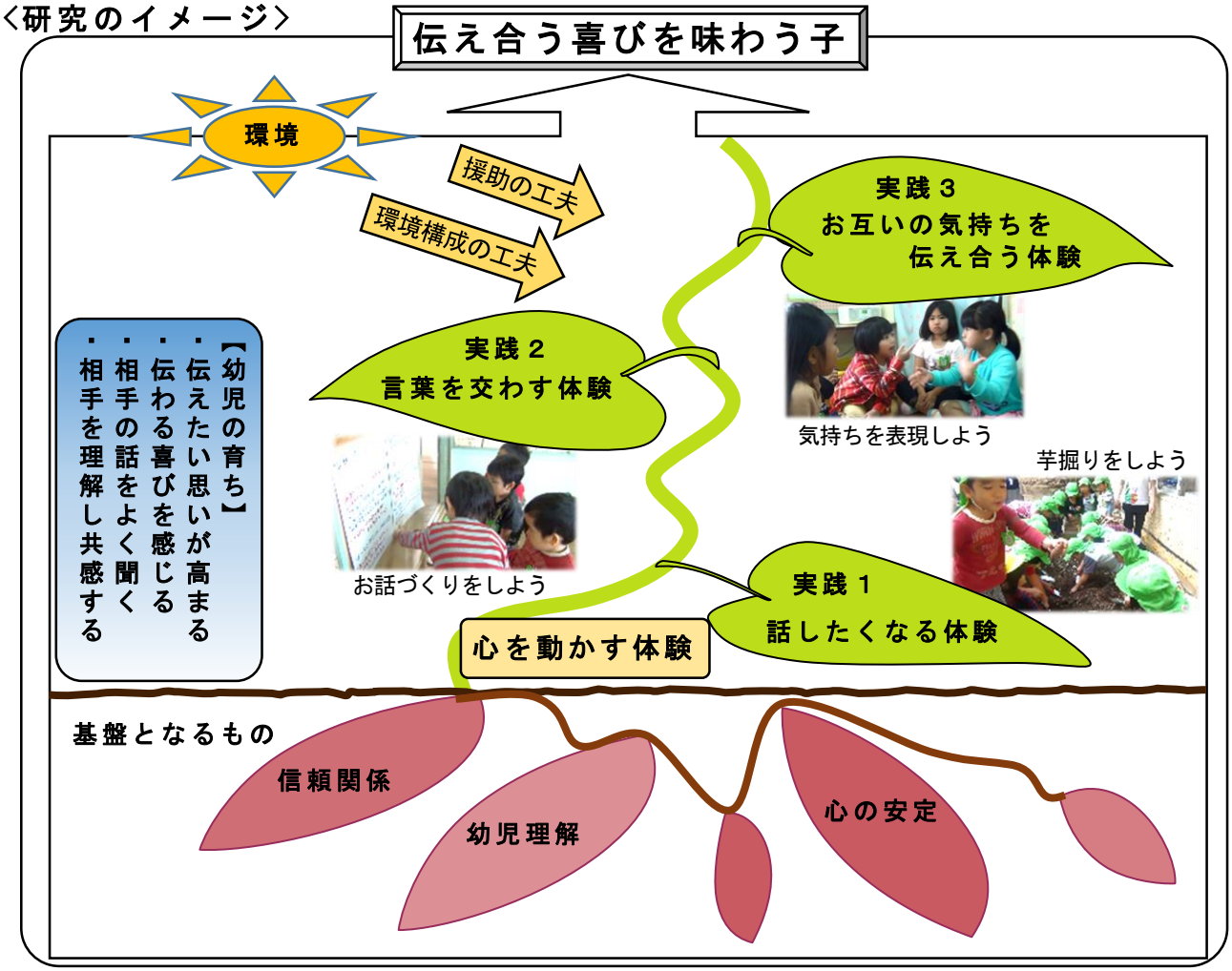
那覇市立上間幼稚園教諭　仲田　麻衣子

〈研究の概要〉

幼稚園教育は環境を通して行う教育である。幼児は様々な遊びの中で体験したことを通して，決まりやルールがあることを知り，友達とのかかわり方を学び，言葉が豊かになっていく。

本研究では，共通した体験を生活の中に取り入れながら，友達同士やクラス全体で共通体験について話す場を設定し，幼児同士が自分なりの気持ちや考えを話す活動を工夫した。その結果，幼児は自分の考えを言葉で話し，相手の考えを知り，受け入れたり，認め合ったりすることで伝え合う喜びを味わうことができた。

〈研究のイメージ〉



〈研究の成果〉

幼児の心を動かす体験を取り入れ，教師は幼児への言葉かけの援助を工夫し，幼児の主体的な活動と教師の意図を絡ませながら環境を再構成していくことで，幼児が様々なことに興味をもってかかわるようになり，自分の気持ちをお互いに伝え合うことができるようになった。

目　　次

Ⅰ　テーマ設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37

Ⅱ　研究目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37

Ⅲ　研究構想図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38

Ⅳ　研究内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
　１　伝え合う喜びを味わうとは
　　(1) 話すこととは
　　(2) 聞くこととは
　２　言葉を育む教師の援助と環境構成
　　(1) 言葉を育むための教師の援助
　　(2) 言葉を育む環境構成

Ⅴ　保育計画と実践（11 月～12 月）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40

Ⅵ　結果と考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
　１　実践１「話したくなる体験」から
　２　実践２「友達と言葉を交わす体験」から
　３　実践３「お互いの気持ちを伝え合う体験」から
　４　個に応じた援助を通して（個の変容から）
　５　研究のまとめ

Ⅶ　成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
　１　成果
　２　課題

《主な参考文献・引用文献》

《幼児教育》

伝え合う喜びを味わえるようになるための援助と環境構成の工夫

～自分の気持ちや考えを話す活動を通して～

那覇市立上間幼稚園教諭　仲田　麻衣子

Ⅰ　テーマ設定の理由

少子化，核家族化，人間関係の希薄化などの社会の変化や，近年では情報機器の著しい発達から，幼児を取り巻く環境は大きく変化している。「那覇市幼稚園幼児の生活調査」では，５歳児においてテレビやビデオの視聴時間が１日平均 90 分以上であることが分かった。このことから，幼児は人と会話をしながら過ごす時間が少なくなっているということが分かる。

幼稚園教育要領の領域「言葉」の内容の取扱いには「幼児が自分の思いを言葉で伝えるとともに，教師や他の幼児などの話を興味をもって注意して聞くことを通して次第に話を理解するようになっていき，言葉による伝え合いができるようにすること。」が明記され，「話すこと」「聞くこと」を相互に関連させながら様々な言葉を獲得し，自分なりの言葉で互いに伝え合いができるようになることが大切だと述べられている。伝えたくなる気持ちを高めるためには，心を動かす体験ができる環境があり，一緒にやり取りできる教師や友達がいて，人とかかわることの楽しさと喜びを体験することが必要になる。

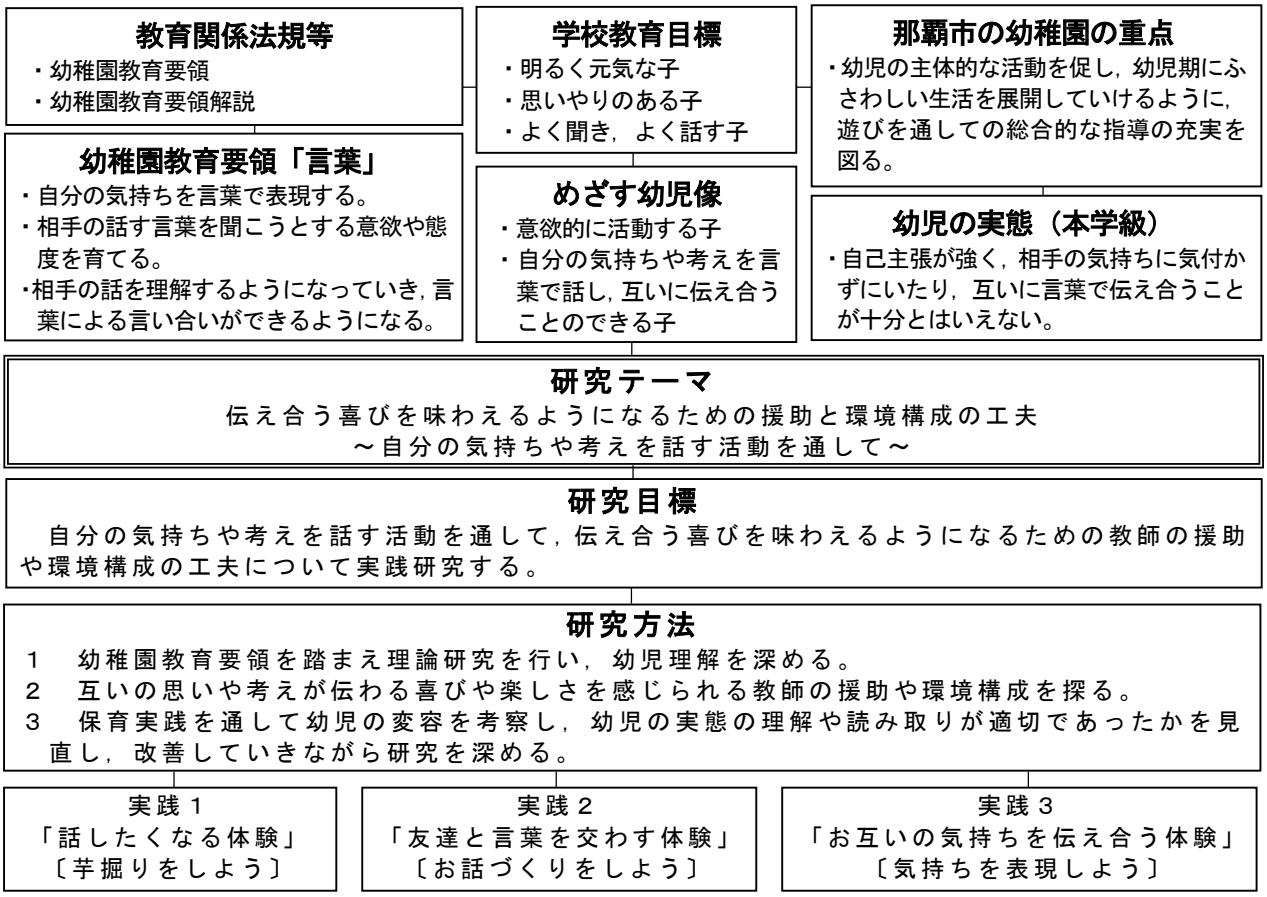
私はこれまでの保育で，教師と幼児の信頼関係を作ることを大切に考え，幼児が素直に自分を表現できることを認め，幼児の気持ちに共感したり，困った場面では教師と共に考え，友達の良さにも気付いていけるように援助してきた。その結果，意欲的に体を動かす場面では，気持ちや考えを自分なりの言葉で表現することができるようになった。しかし，まだ自己主張をするあまり，相手の気持ちに気付かずにいる幼児もいる。また，朝の会や帰りの会では，話したいことが言葉にできずにいる幼児や人前では恥ずかしがる幼児，中には自分の話を聞いてもらうと満足し，相手が話をしているときは聞けない幼児の姿も見られた。

そこで本研究において，共通した体験を生活の中に取り入れながら，友達同士やクラス全体で共通体験について話す場を設定し，幼児同士が自分なりの気持ちや考えを話す活動を工夫する。歌やリズム，触れ合い遊びなどの体を動かして自己表現できる場や，共通体験から幼児が感じ取ったことを話したり，聞いたりできる活動を取り入れ研究を進めていく。また，教師は幼児に寄り沿った言葉かけを丁寧に行い幼児の言葉を引き出す援助をしていく。それらの体験を通して，幼児が自分の気持ちや考えを話し，相手の気持ちに気づいたり，認め合ったりすることで，伝え合う喜びを味わえるようになるのではないかと考え，本テーマを設定した。

Ⅱ　研究目標

自分の気持ちや考えを話す活動を通して，伝え合う喜びを味わえるようになるための教師の援助や環境の工夫について実践研究する。

Ⅲ　研究構想図



Ⅳ　研究内容

１　伝え合う喜びを味わうとは

藤原（2006）は，「言葉を通して相手の意図を知り，自分の意図や要求を伝えます。ことばのやりとりを通して，こころや気持ちを伝え合うのです。」と述べている。このことから，伝え合う喜びを味わうためには，幼児が自分の気持ちや考えを言葉で話し，相手に伝わる喜びを感じ取り，相手の思いが分かり受け入れながら心を通わせてコミュニケーションを取ることが重要だと捉える。また，伝え合う喜びを味わうようになるためには，幼児が人に話したくなる体験をし，自分の気持ちや考えを話すことが必要だと考える。

(1) 話すこととは

幼稚園教育要領には「相手との間に安心して言葉を交わせる雰囲気や関係が成立して，初めて言葉で話そうとするのである」とある。また「生活の中で心を動かすような体験をしたときに，それを親しい人に言葉で伝えたくなる」と示されている。

幼児が自分の気持ちを素直に言葉で伝えるためには，教師が幼児一人一人の言葉の発達や幼児の実態を把握し，その子に寄り添った言葉をかけながら信頼関係を築くことが必要である。それを基盤に幼児が心を動かす体験ができる環境を構成し，幼児にかかわらせることで，伝えたい気持ちがあふれ，話したい，聞いてもらいたいという意欲が育つと考える。さらに，伝え合うためには自分の思いや考えを話すだけではなく，人の言葉や話をよく聞くことも，とても重要である。

(2) 聞くこととは

岡田（2012）は「聞くということは，自然に耳に入ってくる音や声を聞き流すのではなく，聞こうとしている事柄に向かって，意識して注意して，積極的に聞こうとする意欲的な態度が必要である」と述べている。幼児が意欲的な態度で話を聞こうとするためには，その事柄に興味や関心をもち，自ら聞きたくなるような援助や環境が重要である。教師は，幼児の言葉の発達段階を捉え，話の内容を理解しやすいように伝えることや，聞いて楽しくなる話し方，気持ちを表す表情などを工夫する必要がある。また，教師が幼児の話に耳を傾け，認めたり，励ましたり，共感することで，幼児の聞こうとする意欲が育まれていくと考える。

2　言葉を育む教師の援助と環境構成

(1) 言葉を育むための教師の援助

幼児が気持ちや考えを伝え合うために必要な教師の援助を，高濱（2007）を参考に表１にまとめた。

表１　言葉を育むための教師の援助

教師の援助の視点	具体的なかかわりの例
【援助①】**話したくなる存在である**	・話したい，伝えたい，聞いてほしい，という心の動きを温かく受け止める援助
【援助②】**幼児一人一人の思いを引き出す**	・幼児一人一人の話を聞き取り，表出させる援助 ・表情，つぶやき，描いているイメージなどを感じ取る援助
【援助③】**コミュニケーションを媒介する**	・子どもの反応を受け止め，それを返し，つなぎ，広げる援助

本研究では，幼児の心を動かす体験として，芋掘り体験を取り入れる。幼児は芋掘りを通して楽しさや喜びを味わい，伝えたい気持ちがあふれ，自分の気持ちを表現すると考える。また，次第に幼児同士が相手の気持ちを受け入れたり，互いに共感したりしながら，伝え合うことができるようになると考える。そこで，表１の教師の視点を研究の手立てとして，幼児の言葉を受け止め，つないだり，広げたりするなどの工夫をしながら，幼児が言葉で伝え合えるように援助する。

(2) 言葉を育む環境構成

幼児が心を動かす体験ができるように，園の室内外の環境の視点を中坪（2013）を参考に表２にまとめた。

表２　言葉を育む環境構成

環境構成の視点	具体的な環境構成の例
【環境①】**幼児が活動したくなる環境**	・気候や行事など季節感を感じさせる環境 ・子どもの興味や関心が広がり，引き出される環境 ・子どもの多様な表現を引き出す環境
【環境②】**子どもが使いやすい環境**	・子どもの目にとまりやすい高さや位置に配置された環境 ・子どもが見やすい，出し入れしやすい環境 ・多様な素材の中から子どもが自由に選ぶことができる環境 ・子どもが視覚的に情報を捉えやすい環境 ・子どもが自由に手に取ることができる環境
【環境③】**幼児が活動に没頭できる環境**	・落ち着いて活動できるような心地よい雰囲気の環境 ・他児との交流が促され，子ども同士が経験を共有できる環境
【環境④】**子どもが振り返る環境**	・子どもの作品を展示するなど，活動の軌跡や足跡が残された環境 ・子どもが自分自身の存在や成長を実感できる環境

本研究では，幼児の興味や関心を捉えながら，絵本コーナーや製作コーナーの充実，歌やリズム表現が行いやすいように環境を整えるなど，幼児同士のかかわりが深まるような環境構成の工夫を行う。また，幼児一人一人が自分の気持ちを表現しやすい場の環境を工夫する。そこで，表２の環境構成の視点を手立てとして，幼児の実態を見通しながら研究を進める。

Ⅴ　保育計画と実践（11 月～12 月）

		活動名	ねらい	教師の援助　と　環境構成
実践１	３日間	芋を収穫しよう 「話したくなる体験」	◎芋掘りに喜んで参加し，自分の感じたことを言葉に出し合う。	【援助①】言葉を丁寧に聞きとる援助 【援助②】表情やつぶやきを受け止める援助 【環境①】生活に刺激となる環境 【環境③】気持ちや考えを話せる場の設定
実践２	５日間	お話づくりをしよう 「友達と言葉を交わす体験」	◎自分の気持ちや考えを，言葉で伝え，友達の考えにも気づく。	【援助②】一人一人の思いを引き出す援助 【援助③】幼児の言葉を受け止め，返す援助 【環境①】様々な表現を引き出す環境 【環境③】経験を共有できる場の設定 【環境④】体験の振り返りができる環境
実践３	３日間	気持ちを表現しよう 「お互いの気持ちを伝え合う体験」	◎お互いに考えを伝え合い，共通の目的に向かって進めていく。	【援助②】見守り，必要に応じた援助 【援助③】幼児の言葉をつなぎ，広げる援助 【環境②】多様な素材を準備した環境 【環境③】グループ活動の場の設定 【環境③】話し合う時間の保障

Ⅵ　結果と考察

１　実践１「話したくなる体験」から

実践１では「話したくなる体験」として芋掘りを行った。環境の工夫として幼児の目にとまりやすいところに絵本コーナーを移し，音源も幼児が自分達で流して楽しめるよう，使いやすい場所に準備した。教師は，幼児が自分の気持ちを素直に表現できるように受け止める援助をし，芋関連の歌を一緒に楽しんだり，絵本の読み聞かせを行うなど，幼児が芋掘りに興味をもち，楽しめるように工夫した。

表３　教師の読み取り（＿＿興味の高まり　＿＿意欲の高まり）

教師	幼児同士の会話	❤教師の思い◇教師の読み取り
すごい！ かわいい芋が採れたね。 【援助①】	A児　ちび芋ちゃんだー 先生見て見て！ちび芋ちゃん。 B児　おー，大きいお芋が採れた！ C児　これは，でぶ芋ちゃんだ。	❤芋掘りを通して，幼児の心を動かし，話したい，聞いてもらいたいと思う体験につなげたい。 ◇歌や手遊びを取り入れてきたことで，歌に出てくる歌詞が，実体験と重なり言葉に出てきたのではないか。【環境①】
もっと深く掘ったら出てくるかな？ 【援助②】	D児　結構掘っているけど出てこないなー。 E児　この根っこ，なかなか抜けないよ。 D児　モグラが引っ張っているよー。 E児　根っこって髪の毛みたいだね！	◇教師が幼児の言葉を受け入れることで自分の気持ちを素直に表現するようになったのだろう。【援助①】 ◇絵本の読み聞かせでモグラが出てきたのを思い出し，絵本の話に合わせて想像する世界を楽しむことができたのではないか。【環境①】
	A児　見て見て！大きいのが採れている みんな！あきらめないで！みんなで掘ろう！	◇芋掘り体験を行うことで，力を合わせる気持ちが芽生え，友達と一緒に芋を見つけることに期待して楽しんでいるようだ。【環境③】

表３の「ちび芋ちゃんだ」「でぶ芋ちゃんだ」「もぐらが引っ張っているよ」などの言葉は，芋掘り体験が日常行っている歌や絵本の内容と重ね合わせ「話したくなる体験」につながったと考える。また，幼児の「結構掘っているけど出てこないな。」という言葉を教師が受け止め，共感し，励ます援助をしてきたことで，Ａ児の「みんな！あ

きらめないで!みんなで掘ろう!」という言葉につながった。そのことから，みんなで大きな芋を必ず見つけたいという意欲が見られ，芋掘りが心を動かす体験となった。

２　実践２「友達と言葉を交わす体験」から

実践１「話したくなる体験」の後から，幼児は芋掘りの感動や楽しかったことを教師に話したり，幼児同士で話したりしている姿が見られた。また，画用紙などを利用し芋を作る幼児や，芋のつるを使ってリース作りをしたいと提案する幼児もいた。

そこで実践２では，普段の環境に加えて，幼児の要求に応じてセロファンやカラービニールなどの材料を幼児と一緒に準備し，様々な形で表現できる場を設定した。さらに，収穫した芋をてんぷらにして食する体験や，触れ合い遊び「お芋のてんぷら」なども取り入れ，幼児の興味や幼児同士の触れ合いを広げていけるようにした。

そのようなことがきっかけとなり，幼児同士が互いに想像を膨らませ，芋掘りのお話づくりを始めたことから，教師は幼児一人一人のアイディアを丁寧に取り上げ，認めたり，共感したりする中で，そのアイディアをクラス全体に伝えながら，お話づくりが広がっていくように援助した。

表４　教師の読み取り　（～～興味の高まり　＿＿意欲の高まり）

教師	幼児同士の会話	❤教師の思い◇教師の読み取り
芋掘りのお話づくりが楽しくなってきた子ども達		❤幼児同士の会話を取り上げ，クラス全員に話の内容が伝わるようにすることで，自分の考えを話せるようにしたい。
むかしむかしから始まるのね！【援助③】	子ども達　むかしむかし，あるところにおじいさんとおばあさんが住んでいました。	
おじいさんが畑に行くのね。【援助③】	C児　おじさんは畑に行って，おばあさんはお家にいて･･･	◇経験を共有できる場を設定してきたことで,「ねっ!」と友達に共感を求めたり，自分の話が伝わっているかを確認する姿につながったのだろう。　【環境③】
	子ども達　おじいさんとおばあさん一緒に行った方がいい！	
一緒に？【援助②】	F児　おじいさん一人でかわいそうだから。ねっ!!	◇幼児の引き出す言葉をかけ，幼児の言葉をつなげることで「そうそう!」「いいね!」と友達の考えに共感し，アイディアを出し合って相談する楽しさを感じていたようだ。　【援助②】
	G児　そう そう!! そして一人で抜けないから手伝ってもらう。	
	C児　おおきなかぶの話みたいに 抜けないから手伝ってもらうわけさ!!	◇絵本コーナーを充実させ，絵本の読み聞かせを行ってきたことで，想像の世界を豊かにし，お話づくりを楽しくすることができた。　【環境④】
	D児　もぐらが出てきた方がいい。	
他に，お話が楽しくなるは考えあるかな？【援助②】	H児　いいねー。うさぎも！	
	I児　お芋のてんぷら（触れ合い遊び）もやったらいいんじゃない？	◇芋関連の歌やリズム表現を取り入れたことが，お芋の話とつながりアイディアとして出てきたのだろう。　【環境①】
	A児　てんぷら食べてみんなでおならしよう！	

芋掘り体験を振り返る環境や触れ合い遊びなどを取り入れたり，幼児の興味に合わせて製作コーナーや絵本コーナーを再構成してきたことが，お話づくりをする上で幼児のイメージを膨らませることにつながったと考える。また，教師が「むかしむかしから始まるのね！」「おじいさんが畑にいくのね。」など一人一人のアイディアを反復して返したり，「（おばあさんも）一緒に（行くの）？」など，思いを引き出す声かけなどの援助も幼児のお話の世界を広げることにつながったと考える。また，「ねっ!!」と相手に共感を求めたり，「そうそう」「いいね」など，相手の考えを認め，さらに自

分の考えを付け加えるなど，互いにお話を作り上げていくことができたと考える。「友達と言葉を交わす体験」を通して，相手に自分の話が伝わる楽しさを感じたり，自分のアイディアを受け入れてもらえる喜びを感じることができたと考える。

３　実践３「お互いの気持ちを伝え合う体験」から

実践２の「友達と言葉を交わす体験」を受けて，お話づくりが盛り上がっていくにつれて，徐々に友達の話をよく聞こうとする姿が見られた。また，友達の話に対して受け答えをしながら会話をしていく姿が多く見られた。しかし，自分の気持ちを伝えられない幼児の姿も見られた。そのことから実践３では，教師はグループ活動を取り入れ，「今日は何をしようか？」などの言葉をかけ，意欲的に活動できるように援助した。また，お互いに自分の考えを主張し，なかなか折り合いがつけられずにいる幼児には，教師が仲立ちとなり言葉を付け加えながら相手の気持ちも理解できるようにしたり，幼児同士が話し合える時間を保障した。

そのようなことがきっかけとなり，自分の気持ちを言葉やリズムで表現したり，中には製作で表現する幼児もおり，お話づくりが劇あそびに発展していった。

表５　教師の読み取り（興味の高まり　意欲の高まり）

教師	幼児同士の会話	❤教師の思い◇教師の読み取り
今日は，何しようか？【援助①】	Ｊ児　洋服作りがしたい！	❤幼児同士が友達の考え認め，互いに相談しながら活動を進めていけるようにしたい。
ナレーターチームは何するの？【援助③】	Ｄ児　昨日の続きする。 K児　D児とネクタイ作るって約束した。	◇グループで考えて活動できるように援助してきたことで，互いに相談しながら考えを出すようになったのだろう。【環境③】
ネクタイいいね!!	Ｃ児　昨日決めたよな! Ｉとしも一緒に作るんだよ。	◇様々な素材や材料を準備し，幼児が使いやすいように配置したことで，幼児が興味をもち，自ら取り組みたくなったのではないか。【環境②】
それぞれのグループ活動に入る		
体操のことだよ	M児　トレーニングって何？	◇お話づくりに興味をもって取り組んできたことが，イメージを豊かにし，必要なものを作りたいという気持ちにつながったと考える。【環境②】
いいね!それは腹筋っていうんだよ！【援助②】	Ｎ児　じゃ，こんながいいんじゃない？ Ｂ児　こんなのもあるよ！	
腕立て伏せだね！	M児　わかるよ!体操っていっぱいあるよね。 B児　じゃあ，２番の体操は自分が好きなものをやればいいんじゃない。 Ｎ児　その方がいい！	◇話し合う活動を繰り返し取り入れたことで，互いに気持ちを伝え合うことが増え，理解し合えたことが仲間意識を高めることにつながったと考える。【環境③】

様々な素材や廃品の中から，幼児が自分の興味のある物や必要な物を利用して遊びを広げたことが製作活動につながったと考える。また，自分たちでつくったお話ということもあり，想像を膨らませながら友達と相談して製作を楽しみ，できあがっていく喜びが劇遊びへと発展させていく姿につながったと考える。さらに，グループ活動では配役ごとに分かれ，リズムの動きを相談して決めたり，どんなセリフにするかを話し合い，「こんながいいんじゃない？」と自分のアイディアを伝え，「こんなのもあるよ!」など相手のアイディアを聞きながら，互いに良いと思うところを取り入れていく姿が見られるようになった。これは話し合う時間を保障したり，教師は幼児の話を

つなぎ広げる援助を工夫したことで，相手を理解し，受け入れる姿が育ってきたと同時に仲間意識が芽生えてきていると考える。

4　個に応じた援助を通して（個の変容から）

Ｂ児は友達と一緒に遊びたいという気持ちはあるが，自分のペースで集中して取り組むなど，友達とかかわるより一人で遊び込むことが多い。また，Ｓ児は自分の気持ちを表現することが苦手で，友達と一緒に遊ぶときも，話を聞いて側にいることが多い。そこで以下のような手立てと，園児の変容を表６にまとめた。

表６　教師の読み取り

	実践前の姿	手だて	実践後の姿
Ｂ児	○様々な事を器用にこなしていく姿が見られるが，友達に気持ちをうまく伝えられずにいる。 ○毎日のように製作を行っているが，自分のイメージが強く，一人で遊んでいる。	◎いざこざの場面では，Ｂ児の思いを出させ，受け止め，相手の思いや考えも伝えていく援助する。　【援助②】 ◎Ｂ児の思いを受け入れ信頼関係を大切にする。【援助③】	○リズム表現を創作する活動では，自分の考えと，相手の考えを合わせながら，互いに相談している姿が見られた。 ○作ったお面が認められ，それが嬉しくて，友達に関心を向け，一緒にかかわりながら製作するようになった。
Ｓ児	○仲良しの友達に小さな声で話し，人の気配を感じると耳打ちで話をしている。 ○仲良しの友達以外には自分から話しかけることが少なく，教師や他児の問いかけにはうなずくなどの仕草で返している。	◎積極的に言葉をかけてかかわりを増やし，信頼関係を築きながら安心して園生活が過ごせるように援助する。　【援助①】 ◎Ｓ児のがんばっている姿を認め，共感するなどして自信がもてるように援助し，幼児同士のかかわりを広げる。　【援助②】	○教師や友達に認めてほしいという気持ちを，自ら近寄り，視線を合わせるなどの，アピールするようになった。 ○発表会の相談や練習を重ねることで，小さな声ではあるが必要に応じて自分の気持ちを伝える姿が見られた。

Ｂ児に対して，教師は製作意欲を認めクラス全体に紹介するなどの援助を行ってきた。それがきっかけとなり，友達に一目置かれるようになり，自分なりの言葉で作り方を説明している姿がみられた。また，いざこざがあった時には，教師がＢ児の気持ちを聞き取り，受け止めながら，相手にも考えがあることを伝えてきたことで，徐々に相手の気持ちを理解し，認めたり，相手の考えを取り入れたりすることができるようになった（表６＿＿線）。

Ｓ児に対しては，教師との信頼関係を築き，仲の良い友達とのかかわりを深めつつ，友だち関係を広げていく援助を行った。歌やリズム表現をすると笑顔を見せて取り組む姿が見られたので，教師はそのことを認め自信がもてるように言葉かけをした。これがきっかけとなり，触れ合い遊びでは自ら友達を誘い，楽しんでいる姿が見られた。また，クラス全体での話し合い活動では自分の気持ちが言えずにいたが，少人数のグループ活動を取り入れたことで話しやすい空間となり，自分の気持ちを伝えることができるようになった（表６＿＿線）。

5　研究のまとめ

以上の全３回の保育実践を通して，心を動かす体験を取り入れ，友達と言葉を交わしながら様々な考えがあることに気づいたり，受け入れたりできる活動を積み重ねていくことで，伝え合う喜びを感じることができたと考える（表７）。

表７　実践のまとめ

	幼児の実態	手だて	幼児の変容
実践１	○自分の気持ちを相手に表現することが苦手である。 ○言葉で伝えることができずトラブルになることもある。 芋掘りをしよう	・幼児の言葉を丁寧に聞きとる。【援助①】 ・歌や手遊びを取り入れる。【援助② 環境①③】 ・絵本コーナーの環境を整え読み聞かせをする。【援助② 環境①③】 ・芋掘りに興味，関心がもてるような掲示をする。【環境①】 ・自分の気持ちを話せる場の設定をする。【環境①③】	→・受け止められていることで安心し，自信をもつことができた。 →・芋関連の歌に興味をもち，友達同士楽しんでいる姿が見られた。 →・幼児同士で絵本を見合いながら，自分の経験や気持ちを話している姿が見られた。 →・芋掘りに興味をもって取り組み，友達と一緒に楽しむ姿が見られた。 →・芋掘りを楽しみ，自分の気持ちを素直に表現する姿が見られた。
実践２	○自分の気持ちや考えを言葉で伝えられず，お話づくりに参加できない幼児がいる。 お話づくりをしよう	・一人一人のアイディアを認めたり，共感したりする。【援助①②】 ・リズム表現や触れ合い遊びを取り入れる。【環境①③】 ・経験を共有できる場の設定をする。【環境③】 ・体験の振り返りができるように幼児が製作したものを掲示する。【環境④】	→・お互いの良さに気付いたり，相手を受け入れることができるようになった。 →・表情が豊かになり，自ら曲を選択し好きなリズムを楽しんでいた。 →・幼児同士の会話が増え，相談することを楽しんでいた。 →・全員が共有した体験を通して共感する姿が見られた。
実践３	○互いに配役を決め，各グループでの相談を始めるが，なかなか話し合いが進まない様子が見られる。 気持ちを表現しよう	・伝え合う姿を見守り，必要に応じて援助する。【援助②】 ・幼児の言葉をつなぎ，広げる援助をする。【援助③】 ・幼児と一緒に考えながら製作コーナーを再構成する。【環境①】 ・グループ活動の場を設定し話し合う時間を保障する。【環境③】	→・自分達で考えて活動するようになった。 →・幼児同士の言葉のやりとりが増え，相手を理解し，互いに折り合いをつけながら進めていた。 →・友達と必要なものを考えて準備し，言葉を交わしながら工夫して作っていた。 →・仲間意識が出てきて，互いに思いやる気持ちがでてきた。

Ⅶ　成果と課題

１　成果

(1) 心を動かす体験は，幼児の話したくなる気持ちを高め，自分の気持ちを言葉で表現したり，友達同士で伝え合う有効な手立てとなった。

(2) 幼児同士が話し合える場や時間を保障し，教師が幼児の会話をつなぎ広げる援助をしたことで，お互いの気持ちや考えを伝え合うことができるようになった。

２　課題

(1) 幼児の言葉を引き出す教師の援助の工夫がさらに必要である。

(2) 幼児の遊びに見通しをもち，遊びを広げながら発展させていくための環境や教材研究をさらに工夫する必要がある。

≪主な参考文献・引用文献≫

『幼稚園教育要領解説』　文部科学省　フレーベル館　2008
『事例で学ぶ保育内容 領域 言葉』　無藤隆　高濱裕子　萌文書林　2007
『子どもと言葉』　岡田明　萌文書林　2012